

令和7年12月1日

対馬市議会議長 春 田 新 一 様

産業建設委員会

委員長 糸 瀬 雅 之

産業建設委員会所管事務調査報告書

令和7年第2回対馬市議会定例会において、会議規則第111条の規定により、閉会中の所管事務調査の承認を得ておりました本委員会の調査の内容とその概要を、同規則第110条の規定により報告いたします。

本委員会は、令和7年11月17日に、対馬地域商社の事業内容の現状と課題について、及び中対馬未来づくりアクションプランの進捗状況について所管事務調査を行いました。

まず、対馬地域商社会議室において、農林水産部担当職員及び対馬地域商社職員に出席を求め、地域商社の概要説明、対馬市流通加工拠点施設の概要説明、販売実績、主力商品、ふるさと納税返礼品実績、今後の販路展開や課題等の説明を受けました。

一般財団法人対馬地域商社は、対馬市豊玉町貝鮎4番地11に事務所兼加工場があり、平成29年9月1日に名称を変更し、対馬市流通加工拠点施設として営業を行っております。資本金は、500万円で対馬市が100%出資しており、職員数は、現在16名であります。

施設建設の目的は、本市の基幹産業である水産業は、漁業者の高齢化、燃油の高騰、後継者不足、離島であるが故の輸送コストのハンデなど、厳しい状況であります。そこで、近隣漁協及び市内水産加工事業者や対

馬農協などが連携して、島内加工事業者への原材料供給機能、島内飲食店への配送機能はもとより、島外への出荷体制を確立することで、輸送コストの低減を主とした全体的な経費節減を図り、生産者所得を向上させることとあります。総事業費は、平成29年度～31年度にかけて建設され、5億9千9百万円であり、令和元年7月1日より供用開始いたしております。

対馬地域商社の全体売上高は、毎年過去5年間は、1億円を超えており、令和6年度は1億899万9千円でありました。主力商品の魚種は、あじ、剣先いか、あなごが主であり、あじの開き、剣先いかの一夜干し、あなご開き、煮あなごなどです。主な販売先は、グリーンコープ、長崎空港、イーオー食品、はぴねすくらぶ、ふるさと納税返礼品が販路先であります。他にも地域資源を活かした、まぐろ、ぶり、クエなどの商品開発にも力を入れておりますが、令和6年度は対馬近海における主要原料の漁獲不漁、さらに原料価格の高騰により、安定した仕入れが課題でありました。また、昨年末に峰町共同集合店舗内に新装開店した、直売所「心まち」の売上が好調であり、今後の地域商社として事業展開が期待出来る1年であったとのことでした。

令和6年度ふるさと納税返礼品実績の主な返礼品目は、1位は対馬産クエ鍋セット575件、977万5千円、2位はするめいか一夜干しセット217件、324万9千円、3位は剣先いかの耳3kg194件、243万4千円でした。今後の取り組みとしては、島内他社製品の組み合わせを企画し、対馬の特性を活かした魅力ある商品の選定やバリエーション豊富な品揃えで返礼品の中から選択して頂けるよう取り組みを進めて行くとのことでした。

対馬地域商社を運営して行く中で、今後の最大の課題は、原材料価格や人件費の高騰による影響が危惧されています。ここまで築き上げてきた販路や取引先の信頼を失うことなく、対馬産品ブランドを全国へPRし、継続して販売や新商品開発を行っていく上で、大変厳しい状況であることは、理解して欲しいとのこととあります。

今後新たな取り組みとして、長崎県が推進している「おしうお」プロ

プロジェクトに対馬の推し魚、あなごを選定し付加価値を付け、水産物の消費拡大や水産業をはじめとする地域の活性化、県・市・民間事業者と連携したプロモーションを展開していく予定であります。

委員からは、仕入れ原料高騰対策についての意見として、近隣生産者だけではなく、他の漁協組合関係者との連絡体制を強化して、仕入れ先を幅広くしてはどうか。生産者の所得向上が重要であり、今後対馬地域商社が継続的かつ安定的な運営をしていくには、行政からの財政的な支援が必要である。ふるさと納税返礼品についても調査・研究を行い、力を入れて欲しいなどの意見がありました。

次に、中対馬未来づくりアクションプランの進捗状況について、中対馬振興部担当職員立会のもと神話の里自然公園の現地視察を行い、その後豊玉庁舎3階大会議室において、計画の概要及び進捗状況の説明を受けました。

本事業の計画策定の経緯は、中対馬の振興、将来の対馬全体の発展を考慮し、中対馬を重要な地区と位置づけ、観光分野に限らず、農林水産業・商業等あらゆる分野において好循環をもたらす環境整備の必要性を考え、平成30年3月に策定されました。

基本方針のコンセプトは、中対馬を舞台としたつしまリトリート&アクティビティの創造、ターゲットは世界のすべての女子であります。全体構想は、中対馬各地域の特性等を踏まえ7つのエリアにテーマを設定し、エリア内の地域資源や位置関係を考慮してゾーンとスポットを設定しており、エリアの整備テーマと30の個別事業を計画・策定されております。進捗状況としては、平成31年度より、神話の里自然公園を中心としたハード事業やソフト事業に取り組んでおり、主な事業費として地方創生推進交付金や離島活性化交付金等を活用し、令和7年度まで6,791万1,997円の事業費であります。主なハード事業は、神話の里自然公園内のコテージ建設2棟、青海の花畑スポット整備事業であります。主なソフト事業は、シーカヤック及びSUPインストラクター養成事業、中対馬の観光PR事業、神話の里のライトアップ事業や光

を活用したキャンプ客誘客事業であります。

今後の計画については、各事業相互の関連性を意識し事業を実施する必要があるが、地域住民の参加、協力なしでは、長期的なビジョンの実現は困難であることから地域や事業主体が一丸となり事業促進を図る必要があり、併せて、離島振興法や地方創生をはじめとした関連する各種制度を活用しながら、着実に進めて行くとの説明を受けました。

委員からは、女性をターゲットにしているならば女性イベントの企画を進めるべきである。神話の里の利活用を積極的にすべきである。浅茅湾クルーズなどの観光船の取り組みの強化をすべきである。事業を進めるにあたり民間事業者・各異業種団体・地域商社・観光推進部との連携が重要である。策定から7年経過しており、アクションプラン事業の見直しも必要な時期ではないか、などの意見がありました。

以上で、産業建設委員会の閉会中の所管事務調査報告を終わります。